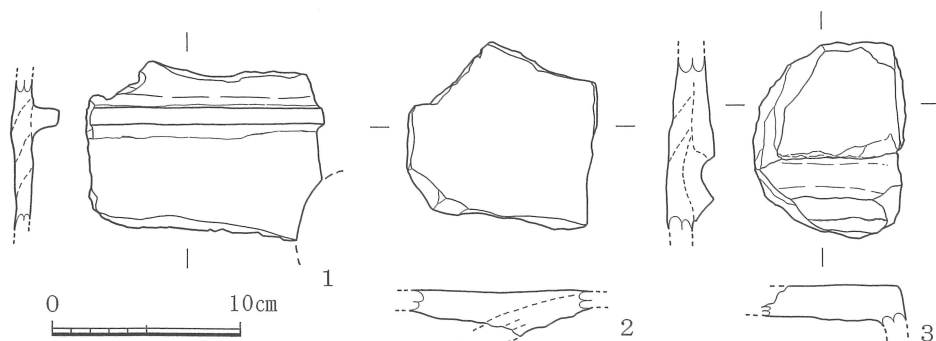




第38図 菅原伏見東陵 採集品実測図 (1/4)

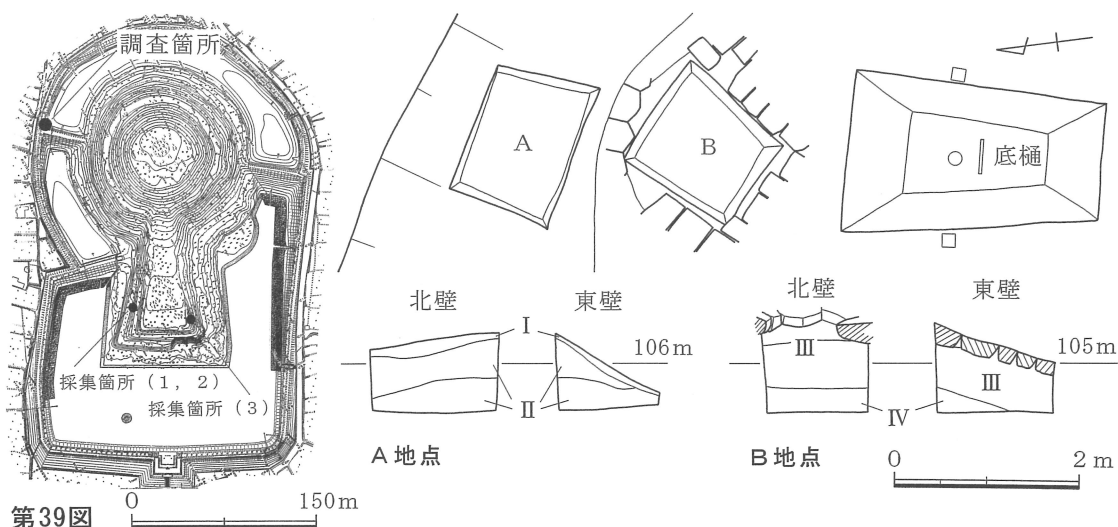
西側面において比較的顕著に認められた。図化したものは、前方部東側面墳丘裾で採集したものである。1は円筒埴輪片である。突帯は比較的幅広く、胴部には円形透孔が確認できる。2は盾形埴輪の盾面部の破片である。円筒部から剥離した箇所にあたる。盾面には線刻で文様が施されていたと考えられるが、現状では確認できない。3は形象埴輪の破片である。剥離や摩滅がひどく、文様や調整は不明である。横断面をみるとわかるように、端は屈曲しており、角部分に相当することがわかる。家形埴輪か甗形埴輪の一部であろう。(清喜裕二)

崇神天皇 山辺道勾岡上陵樋門改修その他工事箇所の立会調査

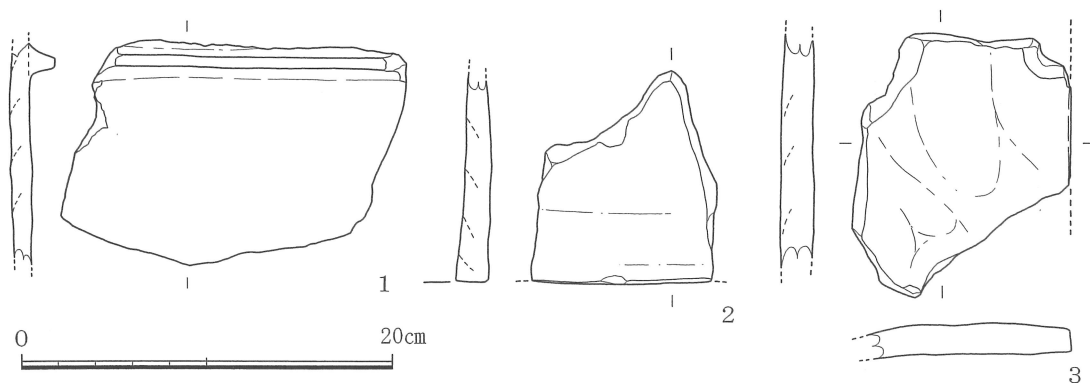
本陵は、奈良県天理市柳本町にあり、前方部を西に向ける前方後円墳である。後円部北渡土堤と外堤の接続部に設けられた樋門を改修することになったため、平成15年12月15日から17日の間、本部職員と畝傍陵墓監区事務所職員により立会調査を行った。

調査箇所は2箇所（A・B）、ともに外堤斜面に設定した（第39図）。土層は2箇所それぞれ2層に分けられた。A地点では表土（Ⅰ）と現外堤盛土（Ⅱ）、B地点では石積基礎の栗石層（Ⅲ）と外堤盛土（Ⅳ）が確認された。現外堤盛土であるⅡ層と、Ⅳ層の関係は不明で、Ⅳ層からも時期を知る資料は得られなかった。遺構・遺物は検出されなかった。

上記の結果を踏まえ、工事は予定通り実施した。



第39図 山辺道勾岡上陵 調査箇所位置図 (1/3000) および 調査箇所平面図・断面図 (1/80)



第40図 山辺道勾岡上陵 採集品実測図 (1/4)

なお、墳丘巡回中に埴輪片3点を採集したので、以下に報告しておきたい(第40図)。いずれも、これまでに本陵から出土し、当部保管となっている埴輪と同じ特徴をもつが、全体が摩滅しており、内外面ともに調整痕はほとんど確認できない。

1は前方部の現状3段目北側斜面で採集した、楕円筒埴輪胴部と考えられる破片である。幅が狭く突出度の高い突帯が確認できる。2は、1と同じく前方部3段目北側斜面で採集した楕円筒埴輪か円筒埴輪の底部と考えられる破片である。底部として図示したが、そうした場合、粘土紐接合痕の傾きが逆になることから、口縁部の可能性もある。3は前方部の現状4段目南側斜面で採集した埴輪片である。破片は平らな板状を呈し、円筒系の埴輪とは考えがたい。比較的器面の状態はよく、内外面指ナデ調整であったことが確認できる。形象埴輪の一部と考えられ、家形埴輪の屋根か壁の可能性があろう。(清喜裕二)

宣化天皇 身狭桃花鳥坂上陵見張所改築工事箇所の立会調査

宣化天皇身狭桃花鳥坂上陵は、近鉄南大阪線橿原神宮西口駅から南へおよそ750m、奈良県橿原市鳥屋町に所在する。南南西-北北東方向に主軸を持つ2段築成の前方後円墳で、「鳥屋ミサンザイ古墳」とも呼ばれる。墳長138m、後円部径83m、同高17.7m、前方部幅78m、同長55m、同高18.6mとされ⁽¹⁾、両くびれ部に造出を持つ(第41図)。その立地から、越智岡丘陵から北東方向に派生した尾根を利用して築造されたと考えられる。前方部前面である北側には縄文時代後期の遺物散布地である鳥屋遺跡が、谷を隔てた西側丘陵上には弥生時代中期から後期の集落である千塚山遺跡および群集墳として名高い国指定史跡新沢千塚古墳群が所在し、後円部南側の丘陵上にも新沢千塚古墳群の一支群がある。そのさらに南側には倭彦命身狭桃花鳥坂墓である「桝山古墳」が所在している⁽²⁾。

本陵に関わる調査事例としては、昭和45年度実施の墳丘裾護岸など整備工事の事前調査、昭和51年度実施の外堤止水壁設置区域の事前調査、昭和61年度実施の鳥居改修工事箇所の立会調査、平成2年度実施の外堤護岸など整備工事箇所の事前調査、平成13年度実施の樋管改修工事箇所の立会調査などがある⁽³⁾。

今回の調査は、一般拝所内に所在した見張所が経年のため老朽化し改築されることになったために行ったものである。見張所改築箇所(長さ6.0m×幅4.5m×深さ0.4m)のほか、浄化槽